

#### 5.3.4 その他の注意事項

機械類の近傍で測定を行う場合、電界、磁界、振動、温度、気流などの影響を受けることがある。それらの影響が及ばないように適当な遮蔽、防振などの考慮、並びに測定点の選定に注意する必要がある。

#### 5.3.5 発生源の状況の記録

低周波音の発生状況を把握するためにも、発生源の種類・発生状況などをわかる範囲で記録しておく。音圧レベルの変化や周波数特性の変化と対応づけることにより、低周波音を発生しやすい条件や発生源の種類などを把握できる場合がある。

発生状況を記録する項目の一例を以下に示す。

- ・ 機械、設備の諸元ならびに稼働状況
- ・ 大型車の通過時刻、車速、交通量、車線（高架橋等）
- ・ 列車の種類、通過時刻、車速、両数、上下線の別（列車等）
- ・ ダムの放流量、堰の越流水深等（ダム、堰等）